

第4回 善通寺市学校等再編整備討委員会 議事録

1. 日 時 令和7年2月10日(月) 午後7時～午後8時8分
場 所 善通寺市役所4階 401～403会議室

2. 出席委員

片山 昭彦	委員	畑田 裕康	委員
米村 徹	委員	大林 勇太	委員
横田 飛真	委員	西川 真有	委員
宮武 有奈	委員	徳山 恵	委員
田嶋 三枝	委員	町田 由紀	委員
山本 幾代	委員	井内 礼子	委員
大西 英和	委員	森江 清文	委員
田中 康隆	委員	松村 早記	委員
森 史郎	委員	高畑 光宏	委員

3. 市側出席者

保健福祉部長	中山	淳	教育部長	尾松	幸夫
子ども課					
課長	北谷	英樹	課長補佐	高橋	友美
			主事	宮地	雄貴
教育総務課					
課長	山地	匠	課長補佐	林	健一郎
			主事	大西	誠

4. 議 事
- ① 子ども一人あたりの運営経費(公費)について
 - ② 将来推計による公立施設(認定こども園)の規模の試算
 - ③ 公立こども園の視察を終えて

5. 概 要

〔事務局〕

本日は、昼間のお仕事等でお疲れのところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいまから、第4回の学校等再編整備検討委員会を開催します。

片山会長、進行の方をよろしくお願いします。

〔会長〕

こんばんは。本日もよろしくお願いします。

それでは、お手元にあります、本日の次第をご確認ください。

本日の議事は3件あり、

- ① 子ども一人あたりの運営経費（公費）について
- ② 将来推計による公立施設（認定こども園）の規模の試算
- ③ 公立こども園の視察を終えて

です。

議事① 子ども一人あたりの運営経費（公費）について

〔議長〕

それでは、① 子ども一人あたりの運営経費（公費）について、事務局より説明をお願いします。

〔事務局〕

よろしくお願いします。

資料の説明に入る前に、皆さまのお手元にお配りしている資料の確認をさせていただきます。

一番上に本日の次第、その次に座席表となっています。その次に、本日の資料①と資料②がありまして、最後に、視察先の資料として、豊浜こども園の要覧とパンフレット、山本幼稚園の要覧をお配りしています。

それでは、「議事① 子ども一人あたりの運営経費（公費）」について、説明いたします。

資料①をご覧ください。

「1. 令和5年度 就学前児童用施設の運営経費（公金）」とありますが、こちらは、幼稚園・保育所・こども園について、公立と民間で、運営経費にどの程度公金、いわゆる税金が投入されているか、その種類別に抽出して記載したものです。

公立については、令和5年度の、公立幼稚園の運営事業費と、公立保育所の運営事業費から、人件費・光熱水費・修繕料を特出しして、それ以外の経費、例えば、手数料、使用料などは、その他の欄に集約して記載しています。

民間については、令和5年度に支出した給付費を幼稚園・保育所・こども園の別に記載しています。

これらの合計額を、「2. 令和5年度 児童一人あたりの運営経費（公金）」の運営経費計の欄に転記し、児童数で割ったものが、児童一人あたりの運営経費年額です。

前回の検討委員会にて、児童一人あたりの公金投入額を比べてみてはどうかというご意見を頂戴し、資料の作成を試みたところですが、こちらをご覧いただくと、

公立の保育所であれば、児童一人あたりの運営経費年額を仮に出したのですが、222万5千円、民間の保育所であれば、159万1千円となっており、特に民間保育所と民間こども園について、公立保育所よりも公金の支出が少ないことが分かります。

幼稚園については、児童数に10倍程度の開きがあることから、このような結果になったかと存じます。

資料①の説明は、以上です。

〔議長〕

ありがとうございます。こちらについて、何か質問、あるいは不明点等ありますか。

〔委員 A〕

説明の中で、「1. 令和5年度 就学前児童用施設の運営経費（公金）」の「その他」の中に、手数料その他諸々が入っているということでしたが、どのようなものが入っているのでしょうか。人件費についても、正規職員・非正規職員すべて含め

たものが入っているのでしょうか。

また、保育所と幼稚園について、大きく違うのは保育時間だと思います。

幼稚園の場合は、一般的に8時半から14時まで、保育所の場合は、施設により違いはありますが、概ね朝7時から始まり、18時、19時、遅いところであれば20時までとなっています。

それらの条件に対応した人件費、民間であれば給付費に含まれていると思うのですが、預かり保育の経費、延長保育の経費、病後保育時の経費などは含まれているのでしょうか。

病後児の預かりなどは、一人当たりの単価というよりも、地域社会への貢献、その地域の未就学児への支援というような意味合いで費用がかかっているのです、少し違うと思うのですが、その金額も含まれているのでしょうか。

また、保育園やこども園は、幼稚園と違って、0歳・1歳・2歳の子ども達をお預かりしています。それぞれの年齢に応じて公定価格には大きな差があるので、年齢に応じた経費を比較するのが妥当だと思いますし、このような形で並べて比べた際、そこにどのような費用が含まれているのかによって、公平な比較ができるかどうかが変わってくると思いますので、お伺いします。

〔事務局〕

まず、人件費については、定数内職員と会計年度任用職員、いわゆる正規職員とそれ以外の職員、全ての人件費が含まれています。

また、手数料の主なものとしては、水質検査やピアノの調律に関するものなどがありますが、「その他」には、手数料の他にも、委託料、使用料、備品の購入費用など、多岐に渡る費用が含まれています。

そもそも、本資料については、児童一人当たりの運営経費をどのように算出するか、ということが最初の課題としてありまして、その算出については、A委員さんからご指摘がありましたように、様々な要因がありますし、公金の支出について、それらをどのラインまで拾うか、また、どういう切り口で計算するか、によって大きく変わってくるものでありますが、まずは、基本的な運営経費を算出し、それを比べてみよう、ということで作成したものです。

民間幼稚園・保育所・こども園の運営経費として記載している給付額は、いわゆる「公定価格（※事務局注：子ども一人あたりにかかる通常の教育・保育費用を基礎として算定される費用額で、国が定めます。）」により算出した金額になります。

ですので、延長保育・一時預かり・地域子育て支援センターなどの費用は含まれていません。

〔委員 A〕

よく分かりました。3歳未満の子ども達に関する部分についても、公定価格が入っているということですね。

やはり、幼稚園と民間の保育所・こども園の比較をするのは、少し無理がありますね。

〔議長〕

この資料については、施設ごとの単純な経費の比較ということで、保育時間の長短を考慮したような比較ではない、ということですね。

他に意見はありませんか。

他に意見はないようですので、検討資料の一つとして本資料を使わせてもらうこととし、次の議題に移りたいと思います。

議事② 子ども一人あたりの運営経費（公費）について

〔議長〕

それでは、② 将来推計による公立施設（認定こども園）の規模の試算について、事務局より説明をお願いします。

〔事務局〕

資料②をご覧ください。

こちらの資料は、第2回委員会の資料として、令和7年度の市立幼稚園、保育所の園児数見込みに基づく認定こども園の規模の試算として、2園案、3園案の園児数、職員数についてお示ししましたが、前回、第3回委員会でお示しした、将来推計、2030年、2040年、2050年の園児数見込みに基づく定員配分検討資

料から、公立施設の園児数見込みにより、2園案、3園案の規模を試算したものです。

2園案、3園案とも単純に園児数を均等に割ったもので、必要職員数は基準に基づく人数であり、本来でしたら、これ以上に職員は必要になってきます。

それでは、資料の1枚目、まずは2030年の将来推計に基づく試算をご覧ください。

まず2園案ですが、公立の施設に在籍する園児数が403名という試算が出ていましたので、これを2園に割りまして、それぞれ203名と200名に割り振っていますが、そういった規模の園児数になるかと思います。

それぞれの、0歳児から5歳児までの年齢ごとの区分と、1号・2号の3歳から5歳までの人数は、ご覧のようになる見込みです。

それぞれの年齢別の児童数と1号2号の認定に基づき、必要となる職員数は、下の表の通りでして、それぞれ20人程度が最低限必要な職員ということになります。

1枚めくっていただき、3園案では、各134名から135名の園児数ということになります。

その園児数に基づき最小必要職員数を計算したところ、大体14名から15名の職員が必要でして、トータルでは43名ということで、2園案と比べると、4名ほど職員が多く必要になるという試算結果になっています。

続いて、資料の3ページ目、その10年後の2040年の園児数予測に基づく規模の試算です。

2園案では園児数が1園あたり189名ということになり、10年前、2030年と比べ、約10名強園児数は減少する見込み、ということになります。

それぞれの年齢に基づく必要職員数はご覧の通りでして、各園18名の職員が最低限必要となるので、約1名から2名減少するという見込みです。

これが3園になると、次のページですが、1園あたりの園児数が126名ということになり、2030年と比べ、10名弱減少するという見込みです。

職員数は、12名から13名ということで、こちらも、1名から2名ほど減少するという予定になっています。

続きまして、次のページですが、2050年、2030年からして20年先の見込みから試算しますと、2園案の場合は、1園あたりの園児数が162名から163名ということで、20年前、2030年と比べて、1園当たり40名ほど減少するということになります。

それに基づく必要職員数は17名ということで、1園あたり2名から3名減少となる見込みです。

最後に3園案ですが、この場合の園児数は1園あたり108名から109名ということになりまして、20年前、2030年と比べて、約25～26名の減少ということが見込まれます。

職員の方は、1園あたり12名ということで、ここも20年前と比べますと、2名から3名の減少、となる見込みです。

なお、こちらにお示ししている資料は、あくまで均等に割ったものですが、今後、規模を検討していく上での参考としていただければと考えています。

資料の説明は以上です。

〔議長〕

2030年・2040年・2050年、それぞれの2園案と3園案の規模を試算した資料が事務局より提示されています。

こちらについて、何かご意見などありますか。

〔委員B〕

本資料の試算は、民間施設の定員数について減少する想定でしょうか。それとも、現状維持する想定でしょうか。

〔事務局〕

前回お示しした資料のうち、民間の定員数を維持するパターンを採用していますので、民間施設の定員数は現状維持したうえで、公立施設の規模を検討する資料となっています。

〔議長〕

2030年より先の人口推移について、自然増減や社会増減を含めた試算ということでしょうか。

〔事務局〕

社人研の推計をベースにしていますので、自然増減や社会増減を加味した試算となっています。

〔議長〕

それでは、こちらの資料も今後の検討をするうえで必要になってくるもので、検討の中で必要があれば、その都度皆さんの意見をいただきたいと思います。

議事③ 公立こども園の視察を終えて

〔議長〕

それでは、次の議事に移りたいと思います。

議事の③「公立こども園の視察を終えて」を議題とします。

2月3日と5日に公立こども園の視察をしていただきましたが、まず、事務局から視察の概要について報告していただき、その後、実際に視察に参加された委員さんから、感想などをお聞きできればと思います。

現地に行けていない委員の皆さまもイメージが湧きやすくなると思いますので、ぜひ、積極的に発言をお願いします。

それでは、事務局から報告をお願いします。

〔事務局〕

先般、2つの公立こども園、観音寺市の豊浜こども園と三豊市の山本幼稚園を視察させていただいた件について、まず、事務局の方から概要を説明いたします。

2月3日の月曜日、観音寺市立豊浜こども園、こちらは幼保連携型の認定こども園ですが、視察させていただきました。

お手元にお配りしています、観音寺市立豊浜こども園のこども園要覧の方をご覧ください。

豊浜こども園の沿革が書かれていますが、こちらの方は、令和6年4月に豊浜保育所と豊浜幼稚園が移行して開園したもので、できて1年目の認定こども園です。

クラス編成と園児数ということで、2024年4月1日現在のものが載っており

ますが、合計で155名の園児がいるということでした。

また、各学年といいますか、それぞれの年齢で、2つずつクラスがあります。職員構成ですが、47名の教職員中、保育教諭が24名いらっしゃるということで、3歳から5歳については、それぞれのクラス担任が、2名ずついらっしゃるということでした。

その2名の担任が、1号と2号の担任を1ヶ月交代で行うということであったかと思いますが、1号認定の3歳から5歳の園児は、全体でも18名ということで、非常に少ないということでした。

それから、保育助手の方が12名いるということですが、これらの方は皆さんパート職員の方で、資格をお持ちでない方も2名いらっしゃるということです。

また、写真もつけていますが、園の様子として「ぼうけんの丘」という、大きなスロープがあり、それが非常に特徴的でして、園児がそのスロープを使って元気に遊んでいる、という印象でした。

園庭など工事中の部分がありますが、子どもの数も多いながらも、敷地や建物は大変広く感じたところです。

また、園舎は2階建てでして、説明によると、災害ハザードマップでため池決壊時の浸水想定区域に該当するというので、2階への垂直避難ができるようにしているということでした。

その災害時に、低年齢児が居場所として過ごす場所や非常食等を2階に準備しているということです。

当日は、こども園の園長さん・副園長さん、それから、観音寺市のこども未来課の課長さんらにもご対応いただき、質疑応答を行いました。

まず、「幼稚園と保育所が一緒になることは難しくなかったか」というご質問をさせていただいたところ、開園前の令和4年度、5年度の2年間をかけ、幼稚園と保育所の職員がそれぞれ行き来して、職員交流を行い、お互いの行事への参加や、園紹介のDVDを交換するなどして、交流をしていったということでした。

また、園長・副園長会を月に1回以上行ったり、先生方も月に1回集まり意見交換をするなどして、すり合わせを行ったそうです。

ということで、準備はかなり丁寧にやってこられたという印象でした。

また、「建物の設計についても先生方が関わったのか」という質問をしましたところ、市内の幼稚園・保育所全ての先生が、初期の段階から関わったということでした。異動等で配置になるということもあるため、全ての先生が関わったそうです。

それから、「園に通うお子さんは豊浜町内の方か」という質問については、特に園区は定めておらず、保護者の希望で通園されるということでした。

観音寺市の場合、こども園が3つあるということで、全て幼保連携型の認定こども園ですが、観音寺こども園が定員400名、大野原こども園が定員300名で、こちらの豊浜こども園が定員200名ということで、非常に大きい規模のこども園となっており、観音寺こども園になると、職員数だけで100名程度いらっしゃるということで、そこを1人の園長で管理するのは難しいかもしれませんね、というようにもおっしゃられていました。

また、「園児が150名と多いので、運営していて、ちょっとヒヤッとするようなことはないですか」という質問をしたんですが、なかなかその辺りは直接的な回答はありませんでしたが、やはり園舎が新しいということもあり、慣れない部分はあるのかなということはおっしゃっていました。

それから、職員間の伝達が非常に難しいところがあるので、掲示板などを利用して、工夫して職員間の情報伝達をしているとおっしゃられていました。

「子どもへのメリットはありますか」とお尋ねしたところ、0～2歳が3歳～5歳を見て育つということで、同じ施設で同じ教育・保育を受けられるのはいいことではないかということ、それから、保護者の方にとっては、同じところに迎えに行けばよいし、行事も同じ日で行けるというところがメリットではないか、また、3歳～5歳に関しては、例えば保護者が仕事を辞めても、1号認定として同じ園に通えること、これは、保育所は保護者が仕事を辞めたら退園しないといけませんが、1号認定として同じ園に通える、そういったところがメリットではないかという回答でした。

それから、幼稚園の時代には、幼稚園が終わった後に預かりを利用されるお子さんが非常に多かったそうですが、これが、2号認定になるとクラスで先生と過ごす

ことができるということは、子どもたちにとってメリットでないか、というご意見もありました。

また、「こちらの園の規模は、将来を見据えて考えられたのか」ということを質問しましたが、今、受け入れるべき人数は受け入れられるように考慮したということで、部屋も少し広めに取っているということでした。

こども園ということもあり、保護者の方の就労等で就園率は上がってきているのではないか、というご意見もありました。

以上が、豊浜こども園の視察の報告です。

次に、2月5日の水曜日、三豊市立山本幼稚園、こちらは幼稚園型の認定こども園ですが、視察させていただきましたので、ご報告します。

山本幼稚園の要覧をご覧ください。まず、園の概要というところですが、旧の山本保育所の3歳～5歳児と山本4地区の幼稚園、そちらの方が、令和2年4月に統合されて、今年で開園5年目ということです。

園児数と学級編制ですが、3～5歳児で98名が在籍しているということで、ほとんどが山本町内の方で、町外からも10名程度いらっしゃるということでした。

このうち、1号認定の園児は6名ということで、その6名のお子さんについては、14時で降園し、夏休み等も長期の休みがあるということです。

右のページの下側になりますが、こちらが職員構成でして、保育教諭のクラス担任が12名ということで、各クラス2名の担任制をとっており、週交代で担当しているそうです。

主任保育教諭が2名いますが、これが本市でいうところの副園長にあたるということです。

それから、保育補助の1名は、主に給食やおやつの担当ということで、本市の幼稚園での用務員さんのような役割の方のようです。

上側の「幼稚園の生活」にあります。朝の7時半から、預かりということで、お子さんは預かっており、8時半からクラス活動を行うということです。

1号認定の子どもさんは14時に降園、その後、2号認定の子供さんは午睡等を行って、ということです。

山本幼稚園でも、園長先生と質疑応答をさせていただきました。

まず、幼保連携型という話もあったが、紆余曲折あって幼稚園型に落ち着いたということでした、なぜ幼稚園型になったかが園長先生では分からないということでしたが、給食施設を作るのが難しかったからかもしれない、ということはおっしゃっていましたが、やはり、そこに落ち着くまでには何年もかかったということで、説明会等も開催していたということです。

今、三豊市さんの方に、幼稚園型になった経緯をお尋ねしたのですが、今の担当の方は当時関わってなかったもので、前任に確認するなどして調べますということで、本日までにご返事はなかったもので、また分かりましたらお伝えします。

それから、四つの幼稚園が一つになるということで、行事については、全てを行うことは無理ということで、精選したそうです。

それから、山本幼稚園については、警報が発令していても預かります、ということで、避難勧告が出ない限りはお預かりして、給食はないんですが、簡易給食等を用意するということでした。

それから、園長のご意見ですが、100名ぐらいの規模がちょうど良いのではないかと、また、「幼稚園型は良かったかどうか」ということをお聞きしたところ、はっきりとはおっしゃいませんでしたが、0～2歳児を気にしなくて良いというのと、3歳～5歳の園児がのびのびと遊べるのがいいかな、という感じでした。

「当然、幼保連携型の0～5歳一緒という良さもあるとは思いますが」ともおっしゃっていました。

自身が幼稚園出身ということで、園長としては、幼稚園型で良かったなということもおっしゃっていました。また、保育教諭さんは幼稚園と保育所、両方から来られているということでしたので、「幼稚園の先生、戸惑いはなかったですか」と尋ねたところ、やはり最初は戸惑いがあったということですが、事務の時間について、従来であれば幼稚園の先生はお子さんが帰った後で事務作業をやっていたと思うけれども、今は担任が2人体制なので、そのあたりを活かして事務作業の時間もとれている、ということでした。

ただ、やはり、100人規模の施設ですが、全員参加しての園内研修等が難しい、ほとんどのお子さんが夕方までいるので、情報共有を皆で集まってするのは難しいため、情報共有の方法を苦心しているということで、これは豊浜こども園と同じかなと感じました。

また、担任の先生について、最初は2人担任に慣れていないので大変だったということですが、慣れると、2人担任で良かったという声が多くあるということでした。

それから、山本幼稚園に隣接して山本保育園が後からできています。山本保育園はゼロから2歳児までをお預かりするということで、3歳になれば、皆さん山本幼稚園の方へ移るのですが、保育所では修了式、いわゆる卒園式を行い、その後に幼稚園に入園する、ということです。

また、運動会も別に行っているそうです。ただ、四つの園が一つになったということで、地域の文化祭にお子さんが出たりすることはあります、とのことでした。

最後になりますが、山本幼稚園は幼稚園型のこども園ということで、3歳～5歳の児童しかいませんので、調理施設はなく、給食については給食センターで調理されたものが搬入されています。

ちなみに、豊浜こども園は幼保連携型のこども園ですので、調理施設を有しており、外部の業者が委託で調理に入っているということです。

以上、簡単ではありますが、事務局からの視察報告とさせていただきます。

〔議長〕

もし良ければ、視察に行かれた方で、補足などお願いします。

〔委員 C〕

参加した委員から、良いなと思ったとか、問題を感じたとか、率直な意見を聴きたいです。

〔委員 D〕

私は、幼稚園と保育所が一緒になるということを心配していたのですが、幼保連携型の豊浜こども園の視察において、先生方のお話の中で「2年間かけて交流し、保育感の違いを埋めていった」ということをお伺いし、そういうやり方もあるんだ

な、と感じました。

園舎については、山本幼稚園は平屋建てですが、敷地が広くて見晴らしがよく、職員室から園庭や駐車場がよく見渡せて、防犯的にもとても良く、土地の広さがあるなら、このような平屋の園舎がいいな、と思いました。

3歳児の保育室を4・5歳児が挟むような構造になっていて、保育をするうえでよく考えられた配置だと感じました。

また、二人担任ということで、良いこともたくさんあって、互いに協力しながらそれぞれの得意な点を活かした保育ができるのではないかと思います。

三豊市の方は、保育園から幼稚園、小学校の流れがうまくできていると感じ、保護者の方の安心にもつながると思いました。

年齢に合った環境の中で教育・保育することが大切だと思うのですが、まずは善通寺市の子ども達にとって一番良い環境の中で保育ができるように、そして、働く者にとっても働きやすいこども園だと良いなと思います。

〔議長〕

施設の人数的な規模、というところではどうですか。

〔委員 D〕

竜川幼稚園では、6年ほど前は園児が180人近くいましたが、今は130人程度です。山本幼稚園長が、100人程度がちょうど良いのではないかと仰っていましたが、自分もそう感じました。

一人の園長が200人規模の施設を管理するのは、大変だと思います。

〔委員 E〕

豊浜と山本は合併したまちの話で、善通寺市の再整備を進める上では、少し違う考え方が必要だと思います。善通寺の場合は私立の保育園や幼稚園があるので、私立の施設を活用する配分を考えたうえで、公立の施設を整備する必要があると思います。

〔委員 F〕

山本幼稚園の視察をさせてもらったのですが、幼稚園型もありかな、と感じました。山本幼稚園は人数規模がちょうど良く、近くに保育所があるからですが、保・

幼・小の連携が良くとれています。

また、観音寺市も三豊市も合併したまちなので、善通寺市よりも学校再編がしやすかったのだろう、と思います。これを善通寺市にどう当てはめて考えていくのがとても難しく、重責を感じるところです。

一つ質問なのですが、資料②は幼保連携型を想定していると感じるのですが、事務局としては、幼稚園型を想定していないということでしょうか。例えば、「3園のうち1園を幼稚園型にしよう」といった検討結果が出た場合、職員数の問題などあると思いますが、どう考えていますか。

〔事務局〕

今回の資料は、幼保連携型で試算しています。ただ、あくまでも規模の試算の資料として、そのような設定で作成しただけですので、幼稚園型を排除しているというものは一切ありません。

次回に向けて、「幼稚園型こども園と保育所を作った場合にどういった将来推計になるのか」といった資料が必要ということであれば、そのような資料を作成しますし、担任2名体制をとる場合の資料が必要ということであれば、ご要望があれば、そのような資料も作成してみます。

〔委員 G〕

豊浜こども園、すごく大きくて広い園で、子どもが伸び伸びとしている印象だったのですが、子どもが遊ぶ箇所が大きく3箇所ありますが、月に1度避難訓練や不審者訓練をされているということ、また、普段はそれぞれのポイントに3名ほど職員を配置しているということでしたが、どの組のどの子どもがそこで遊んでいる、というのを全て把握しているわけではないので、まだ課題があると伺いました。

まだ園庭などが完成していないということではありましたが、数が多いので、園児の安全を守るということが大変なのかなと感じました。

山本幼稚園は、規模的には豊浜こども園より小さいのですが、運動場で遊ぶ子どもが多いということもあり、安全面が今後の課題かと思います。

〔委員 H〕

豊浜こども園について、今後習熟していけば問題点が解消し、安全面がより良く

なる可能性があるでしょうか。

〔委員 G〕

詳しく話を聞いたわけではないのですが、スロープの向こうの運動場やプールがまだ完成しておらず、訓練は実施しているけれども、子どもの一時避難先などの動線が定まっていないので、その辺りが完成し、動線の検討がきちんとなされれば、良くなる可能性はあるのではないか、という話がありました。

〔議長〕

豊浜こども園の場合、ため池が近くにあり、ため池が決壊した場合には、階段で上がるのが危険なので、全員スロープで上がるようにしている、と伺いました。

〔委員 I〕

豊浜こども園と山本幼稚園の、将来推計による園児数予測の資料がほしいのですが、可能な範囲で良いので、よろしくお願いします。

〔事務局〕

確認してみます。

〔議長〕

他に意見はないようですので、本日の議事は全て終了しました。

次第の「3 その他」に移りたいと思いますが、委員の皆さまから何かありますか。

〔委員〕

特に意見なし

〔会長〕

資料も揃ってきて、視察もしていただいたので、今後、具体的な議論が進んでいくと思います。できるだけ積極的に、色々と意見を出していただきますよう、お願いします。

事務局から、何かありますか。

〔事務局〕

次回までの資料として、今回の将来推計を基に、幼稚園型認定こども園だとなるか、というような試算を作成いたします。

〔会長〕

次回までに、「こういった資料がほしい」という要望がありましたら、事務局に連絡してください。

次回の会議は、3月17日(月)を予定していますので、よろしくお願いします。

以上で、本日の会議を終了します。

午後8時8分 終了